



㊦んな楽しく ㊦んでもチャレンジ ㊦んまる笑顔の

みなんまの子

南有馬小学校だより No.8

令和8年6月5日(金)
南島原市立南有馬小学校
校長 大草 修三

第1回学校運営協議会 を開催しました！

5月28日(木)、原城オアシスセンターで、第1回**学校運営協議会**を開催しました。今回は、今年度1回目の協議会ということで、南有馬小学校及び南有馬中学校の学校経営方針等の説明を行い、承認をいただきました。

その後、昨年度からの継続議題となっている、たくましい子を育てる「南有馬モデル」



についての**熟議**を行いました。具体的に、自転車歩行者専用道路を活用した町探検、地域の清掃活動、地域の行事への参加、民泊について様々なご意見をいただき、今後、実現できることから取り組んでいこうということになりました。

また、学校運営協議会后、第1回**地域学校協働本部**会議が開催され、令和7年度の活動報告と今年度の活動計画について協議が行われました。今年度もたくさんの地域の方に子どもたちの学習や見守りに協力していただくこととなります。よろしくお願いいたします。

「熟議」って何？

複数の当事者が十分に「熟慮(よく考えること)」と「議論(話し合うこと)」を重ね、共通の課題解決や合意形成を目指す対話のプロセスです。単なる意見交換にとどまらず、全員が自分事として課題に向き合い、互いに納得できる解決策や対応策を導き出すことを目的に行われます。

そもそも、学校運営協議会って何？

学校・保護者・地域住民が連携して子どもたちの育成に取り組む「コミュニティ・スクール」の中核となる機関のことです。市の教育委員会によって設置され、校長の作成する学校経営方針の承認や学校運営に関する意見を述べることによって、学校づくりに参画する働きを担っています。南有馬小学校と南有馬中学校は南島原市においてはじめてコミュニティ・スクールに指定された学校です。



地域学校協働本部とは？

地域全体で子どもたちの学びや成長を支え「学校を核とした地域づくり」を目指すための仕組み・体制のことです。地域住民の方や企業、団体などが学校と連携して様々な活動(学習支援、登下校の見守りなど)を行っていただきます。

今年度もよろしく お願いいたします

今年も「原城図書館友の会」の会員の皆様による読み語りを朝の時間にさせていただくことになりました。2日(火)に1・2・3年生の子どもたちに絵本や紙芝居の読み語りをさせていただきました。子どもたちは、読み語りにすうっと引き込まれるように耳を傾け、お話の世界に浸っていました。毎週火曜日が楽しみです。

ちなみに、2日の読み語り、原城図書館友の会として186回目だったそうです。感謝の気持ちでいっぱいです。





行事予定

- 9日(月) 避難訓練、歯磨き集会
- 11日(木) ジオパーク学習(5年生)
- 12日(金) 学校探検(1年生)
学校保健委員会
PTA 評議員会
スクールバス検討委員会
- 15日(月) 代表委員会
- 16日(火) 水泳指導開始
- 22日(月) 南有馬小教育週間 ~28日
校長講話
- 23日(火) 6年生ふるさと発見ツアー
- 24日(水) 1年生いも苗植え体験
- 26日(金) 授業参観(道徳)、学級部会
- 28日(日) PTA 親睦モルック大会
(南有馬小体育館)
- 29日(月) 委員会活動



1日(月)から、スマイル掃除が始まりました。スマイル掃除とは、1年生から6年生までの縦割り班を編成し、その班で学校のいろんな場所を分担して掃除をする取組です。

6年生のリーダーの指示に従って下級生が一生懸命掃除をしている様子が、とてもほほえましいです。掃除をすることで学校をきれいにするはもちろん、縦割り活動をする中で、上級生はリーダーシップや責任感を学び、下級生は社会性や協調性を培うなど、互いの成長が期待できます。



ほっとタイム

突然ですが、私の得意な料理は「みそ汁」です。毎朝、作ります。前の日の夜から煮干しを水に入れておきます。みそ汁に入れる具も、根もの、キノコ類、葉物、海藻類、豆腐と具沢山にします。鍋に入れるタイミングや煮る順番も決めており、自分的には、かなりこだわっているつもりです。

私がなぜみそ汁を作るようになったかという、話せば長くなるので省略しますが、結論から言うと、家族の「おいしい!」の一言です。「お父さんの作ったみそ汁は、おいしい!」このひとことにだまされて、ここ数年、みそ汁づくりに励んでいます。

みそ汁づくりの手際の良さや段取りは、妻には到底かないません。包丁の扱いも、私は「トン、トン、トン」のリズムですが、妻は「トトトト、トン」のリズムです。断然、妻が作った方が早くできます。でも、家族の「おいしい」のひとことで、私はみそ汁を作り続けています。

子どものお手伝いも同じではないかと思うのです。子どもがすると、時間はかかるし、危ないし、汚いし…親がした方が断然早いし、きれいで、正確にできます。

でも、経験させなければ、いつまでたっても子どもはできないままです。どんなに時間がかかっても、汚くても、「ありがとう、助かったよ。」「わー、おいしいね。」の言葉で、子どもは「よかった、明日も頑張ろう。」とか「私も役に立っている。」と明るい気持ちになるものです。

家庭でお手伝いをさせていますか?子どもは失敗しながら、でも大人にほめられることで生活の術を身に付けていくものです。お父さん、お母さんもそうではなかったですか?